

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

新しい道、古き町並み

～ 雑司が谷遺跡 環状第5の1号線 最終発掘調査区 ～



発掘調査区からサンシャイン60方面を望む。左は都電荒川線。

千登世橋からサンシャイン60を望むと、都電荒川線の両脇に沿って延びる新しい道が目映ることでしょう。この道路は、現在整備中の都道環状第5の1号線で、これまでも道路敷設前に発掘調査を行ってきました。このたびの調査は、その最後の地区となります。

雑司が谷遺跡は、旧石器・縄文・平安・室町・江戸

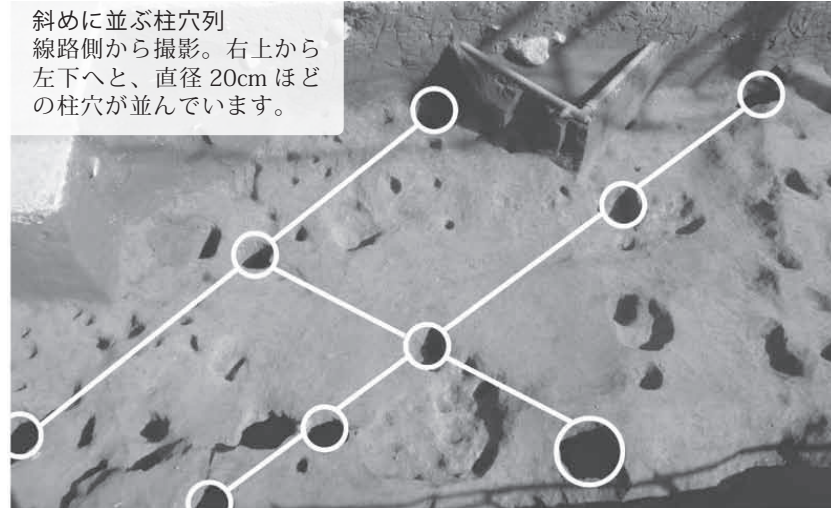
時代を含む複合遺跡です。法明寺や南蔵院、金剛院など中世に成立した寺院も多くある雑司が谷では、近年、宿坂の鎌倉街道につながると思われる中世の道路が発見され、徐々に往時の姿が明らかになりつつあります。特に江戸時代には、鬼子母神門堂に参詣する人々で参道沿いの茶屋や料理屋は大いに賑わいをみせました。このこともあり、発掘調査では江戸時代の遺構・遺物

が数多く発見されています。(次ページへ)

発掘調査では、江戸時代の建物と考えられる大型の柱穴列が発見されました。柱穴は、現在の道路から見て斜め方向に半間(約90cm)もしくは1間(約180cm)の間隔で並んでいました。これから詳しく検討していく必要がありますが、参道からやや奥まった場所に位置する建物であったと推測されます。また近代では東西に階段をもつ、大型の地下室が発見されました。この地下室は防空

壕と考えられ、空襲の際に階段が埋まってしまっても、出られるように2つ設けられたものでしょう。こうした戦時中の遺跡は、“つい最近”と思われがちですが、忘れてはならない地域の大切な記憶といえるでしょう。(小川祐司)

階段が2つある地下室
数度の使用によって階段は破損しており、造り替えされています。



発掘調査情報

「巢鴨町」の片隅で

8月下旬から9月中旬にかけて、巢鴨遺跡で発掘調査を行いました。巢鴨遺跡は、旧中山道を中心として、その両側に展開していた江戸時代の武家地・町屋・寺社・村落を包括した遺跡です。今回の発掘地点は、当時の絵図から巢鴨町の下中組の一角に比定され、とりわけ町家の裏手と推測されます。調査の結果、ごみ穴(写真左)と井戸が発見されました。

ごみ穴から出土する遺物は、多くの場合そこに住む人々の生活と密接な関係にあり、その内容から生活の様子が窺える事があります。身近な例を挙げてみましょう。例えば、私の家庭は裕福とは言えませんが、それでも毎日の晩酌は欠かしたくありません。缶ビール(正確には発泡酒)1本は日課です。この空き缶

を毎日ごみ穴へ捨てたとします。これを発掘した後世の考古学者は、当時の私の経済状態をどう分析するのでしょうか?仮に別の地点で吟醸酒やワインの瓶が主体的に出土する事例があれば、これと比較して私の方が貧乏な家庭であることが推測されます。または、これを嗜好の違いと捉える事もできます。或いは一方が料理屋の可能性もあり、それは一緒に出土する遺物を総合的に判断する必要があるでしょう。

今回発見されたごみ穴の遺物については、これから整理作業を経て分析される事となります。果たして、どの様な結果となるのでしょうか。(宮川和也)



ごみ穴(3号遺構)の土層断面



調査地区の西側全景。一番奥がごみ穴です。

ただいま文化財展の準備中 終了致しました



文化財ウィークに合わせて、10月24日から11月4日まで、豊島区役所1階ロビーにて豊島区教育委員会主催「豊島区の文化財展2011」を開催します。

今年の埋蔵文化財展示（委託事業）は、江戸時代のあかりの道具「灯火具」にスポットを当てます。

現在は、電気が通っているおかげで、スイッチ1つで室内は明るくともります。しかし、電気のなかった江戸時代では、大名も庶民も油や蠟燭を使った暗いともし火で過ごしていました。

区内の大名屋敷跡や料理屋跡、町家跡などの遺跡からは灯火具が数多く出土しています。展示ではあかりに関わる出土遺物を集成し、さまざまな工夫を凝らし

た江戸時代の灯火具を紹介します。

「豊島区の文化財展2011—江戸を照らしたあかりの道具—」を楽しみにお待ちください。（高木翼郎）



↑ 昨年の文化財展の様子

← 区内遺跡から出土した灯火具



豊島区の文化財展 2011

—江戸を照らしたあかりの道具—



会期：2011年10月24日（月）～11月4日（金）
 午前9時～午後5時（土・日・祝日除く）
 会場：豊島区役所本庁舎1階ロビー（最寄 JR池袋駅）
 ※展示会場にてパンフレットを無料配布いたします



豊島区立勤労福祉会館 文化カレッジ

考古学講座の近況報告

講座「中世の城や館を歩いてみよう」 第3回 石神井城巡検

去る7月2日、練馬区に所在する「石神井城址」を見学してきました。石神井城は室町時代に、太田道灌によって落城させられるまで、豊島氏の居城の一つでした。現在は、土塁や堀の一部が残っていますが、遺構保護のため主郭部分は立ち入りが禁止されています。今回の講座では、許可を頂いた上で特別に入らせていただきました。23区内に残る中世城館の遺構を足でじかに感じる機会は滅多にないため、受講者の方々には大変喜ばれました。

また、石神井公園脇に新しく開館した「石神井公園ふるさと文化館」にも立ち寄りました。石神井城やその周辺遺跡から出土した資料などを見ることで、石神井城をより深く学ぶことができたのではないのでしょうか。（榎本邦人）



石神井城主郭前での説明の様子

講座「考古学から学ぶ 豊島区とその周辺」

第3回 東京都埋蔵文化財センター見学

区内のさまざまな遺跡を学ぶこの講座では、第3回目（7月9日）の講義において、発見された遺物がどのように活用されていくのかを学ぶため、多摩市にある（財）東京都埋蔵文化財センターを訪れました。

数万点にもおよぶ収蔵資料は、復元・保存処理・各種の分析を経て、保管または展示に活用されていきます。なかでも現在開催中の「縄文から弥生へ」展では、ほとんどの遺物を直接手に触れることができる画期的なものでした。受講生にも大変好評で、文化財の大切さや面白さを学ぶ良い機会となりました。（小川）



展示物のほとんどを触れることができます

としま遺跡瓦版

以下の書籍で、当会正会員の研究成果や、区内遺跡の発掘調査の話が掲載されているので紹介します。



江戸遺跡研究会編『江戸の大名屋敷』

吉川弘文館 6,500円

参勤交代制度に伴い建築され、巨大都市江戸を支えた大名屋敷。多くの遺跡発掘の事例から、豪華絢爛な様相が明暦大火後に変遷する姿を検証。都市の成立・維持に果たした役割や大名の生活をも復元し、その全貌に迫る

発掘調査された都内の大名屋敷（尾張藩徳川家、加賀藩前田家など）の様相が、考古学研究者によって詳細に論じられており、「江戸の都市空間に広がる大名江戸屋敷の具体像を示した」一書と言えます。

小川祐司は「江戸周縁の大名屋敷」で、豊島区内に所在した伊勢津藩藤堂家染井屋敷について、これまで行なわれてきた発掘調査における研究成果を載せています。



『巣鴨百選』9月号（通巻202号）

巣鴨百選会 210円

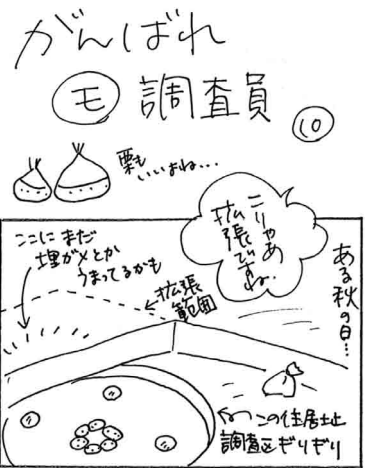
巣鴨の地域タウン誌である『巣鴨百選』に、巣鴨一丁目で実施した発掘調査の成果を紹介しました。江戸幕府最後の将軍徳川慶喜は、明治30年から4年間の短い居住期間でしたが、巣鴨のこの地に住んでいました。

発見された慶喜邸に関わる遺構群をはじめとした発掘調査の情報に加え、慶喜邸の屋敷範囲を現在の地図上に示した推定図を掲載しています。

※巣鴨百選会加盟店にて頒布しています。詳しくは、巣鴨百選会にお問い合わせ、又はホームページをご覧ください。

巣鴨百選会 Tel 03-3910-1595

ホームページアドレス <http://www2.odn.ne.jp/sugamo-100sen/>



焼銀杏に、茶碗蒸しに…、⊕の計画は、一挺のエンピによってもろくも崩れ去った

【編集後記】

🍷文化財展のために油を用いたともし火のみで夜を過ごしてみましたが、まさに「一筋の光明」とはこのことなのでしょう。

🍷10月21日は「あかりの日」です。「あかりの日」と「豊島区の文化財展」を機に、あかりの本質を考えてみようと思います。皆様も是非、会場へ足を運んでください。（翼）

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来：蒔は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蒔の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：高木翼郎